

1.教育目標

『「自ら学び、よく考える子」「思いやりのある子」「元気な子」の育成』

— 意欲に満ち溢れ、ねばり強く、最後までやりとげる —

2.本校の経営方針

上記の目標をめざし、違いを認めあい、高めあうことができる学級・学年集団を形成していく。「体」と「心」が元気であり続ける力を「生きる力」とし、次の教育目標の具現化により児童一人ひとりそれぞれが成長することができるよう努める。

3.教育目標の具現化

☆前提として

こどもは学校の主役であり、そのこどもを支えるのが「保護者」「地域」、そして私たち「教職員」であると考えます。こどもを取り巻くおとな一人ひとりが、それぞれの立場を理解し、尊重し、支えあいながらこどもと向き合うことにより、一人ひとりのこどもが輝く教育をめざします。

そのためには、こどもの心身の発達段階に応じた教育活動を推進し、豊かな思考力・判断力・表現力を培い、自らの向上とより良い社会の発展に貢献しようとする心豊かでたくましく生きようとするこどもの育成に努めます。

①人権の尊重

全ての教育活動のベースとしての人権教育

- ・ 一人ひとりを大切にした学級経営
- ・ 人権尊重の視点で教科領域の指導にあたる。
- ・ 国際理解教育（多文化共生教育）、障がい理解教育、キャリア教育の推進を図る。
- ・ いじめの早期発見、解決に努める。

②確かな学力

個々の特性や能力を伸ばす為に

- ・ ICT 機器やソフトをツールとして最大限活用する。
- ・ 読み、書き、計算の習熟に努める。
- ・ 生活場面に即した教科横断的な授業及び能動的な学習を創造する。
- ・ 単元テストや調査、アンケートの結果を検証し次へと活かす。
- ・ 少人数授業により、きめ細かな指導を展開する。

③支援教育の推進

支援学級の充実と支援を必要とする児童のために、

- ・ 子ども一人ひとりの障がいに応じた自立活動を計画する。
- ・ 全教職員の共通理解を基に、支援教育の充実と児童支援体制を図る。
- ・ 通常学級との交流の機会を設定し、共に学び共にのびる人間関係づくりを図る。

④健康・食育の推進

自他の生命尊重の精神を育むために、

- ・ 健康安全を自ら考える子どもの育成にあたる。
- ・ 給食や教科領域において、食事の重要性を意識し生活に活かせるよう推進する。
- ・ 危機管理マニュアルの徹底を図る。
- ・ 運動や遊びを通して、健康な体づくりを推進する。
- ・ 基本的な生活習慣や社会生活上のルールの定着を図る。
- ・ 保健だよりや学校だより等で、保護者への啓発に努める。

⑤児童養護施設との連携の推進

児童養護施設から通学する児童への支援をはかるために、

- ・ 連携を密にし、児童理解を深める。
- ・ 在園児童への支援体制を組み、その推進を図る。

⑥不登校対応環境の整備

居場所としての学校である為に

- ・ 言語環境を整える。
- ・ 全ての児童が、困った時に相談することのできる大人がいる環境をめざす。
- ・ 校内適応指導教室を設置する。(coco ルーム)

⑦地域連携の推進

開かれた学校として、学校と地域の緊密な連携をはかるために、

- ・ 学校公開・学校説明会を行う。
- ・ 地域の行事等に参加する。
- ・ ホームページ・学校だより・情報配信アプリで情報の提供を推進する。
- ・ 学校協議会や地域教育協議会の推進に努める。

「これからの時代を生きる子どもたちに育みたい資質」

<9つのポイント>

心のそなえ … 礼儀正しく思いやりのある子ども

- (1) 時と場に応じた「あいさつ」ができる子
- (2) 相手の気持ちを思いやり、親切にできる子
- (3) 仲間と協力して活動し、互いの良さを認め合う子

学ぶ意欲 … 自ら学び工夫することも

- (4) 将来の自分に役立つ力を確実に身につける子
- (5) 落ち着いて話を聞き、自ら進んで考え、発表する子
- (6) 夢や目標を持ちながら、よりよく生きようとする子

鍛える心と体 … 元気で頑張る子ども

- (7) 健康や安全に心がけ、けじめのある生活ができる子
- (8) 自他の命を大切にする子
- (9) 最後まであきらめず、勇気をもってチャレンジする子

